

千利休が完成させた「侘茶」の思索の跡を勉強してみると、茶事の構想から茶室や道具のデザインまで、時代の常識を超越した、革新にして斬新な芸術活動であつたことがよく分かります。

私たち六志会は、長年この伝統の侘茶を学びつつも、片や、現代の美意識によって演出する前衛の茶の湯の姿も楽しむ男だけの茶集団です。

今回、新趣向の「鬪茶・比喩」を発表するに当たり初演の地を鎌倉としました。それは、中国から渡来した「茶」がこの鎌倉の地で源頼朝の病を治めて人気を博し、やがては宮廷人から僧侶や庶民までも夢中にさせた「鬪茶」という遊戯を生むに至つたという、茶の故事へのご挨拶からです。そして、茶会をあそび、東西文化の融合の茶の湯を楽しむ六志会の席には常に、西洋文化の根源として古代より存在する命の飲みもの「ワイン」が招待されています。

一期一会の精神を共有しながらも、茶とワインに求められるものは永続の個性です。「鬪茶」は茶の個性を競う遊戯、「比喩」はワインの究極を探る遊びです。

この秋は、六志会のアヴァンギャルドなワイン茶会の最新ヴァージョンをお楽しみください。

激闘の茶の舞台は、紅葉で知られ、そして知の巨人、西田幾多郎、鈴木大拙らが哲学や禅の勉学に励んだ肅然の地としても知られる北鎌倉の円覚寺塔頭龍隠庵です。



茶の世界の「みたく」による価値観と美意識の逆転。これは我々のデザインの世界にも相通するものでその意味では現代、アーチストやデザイナーが利休の精神に近い位置にいるのではないかと思つた。この価値体系を確立し、茶の湯の精神を世界語として発信する必要があるのではないか。 田中一光

麴谷宏——主宰

グラフィックデザイナー。無印良品の開発に参画して、シンプルなライフスタイルを提案したクリエイターとしても知られる。青春のハリウッド時代を学んだワインを日本に啓蒙するフランス政府よりシムアクリ勲章を受勲。日本ワインを愛する会（発起人1998年5月茶誌「なごみ」に「ワイン茶会」構想を発表。2008年、異業種の友人たちを誘って「六志会」を結成。財団法人国際茶道文化協会評議員。茶道文化振興賞受賞。

角山一俊

世界が舞台の国際弁護士が故に、茶の湯の和の道に強く魅かれて、六志会創設以来のコアメンバーとして、伝統と革新を究めるべくお稽古に精進を重ねている。邦茶や焼き物の世界にも興味があり、公私に多忙、ワインの趣味もますます佳境に入る。

渡邊弘之

中南米の歴史・音楽・食に精通するラテン人。酒類食品の輸入商社やホテル管理システム開発会社を経営するが、たまたま六本木男声合唱団の副団長として活躍。ゴルフの腕前はプロ並み（自称）。和の伝統の世界にも興味深く、最近茶道に熱中している。

澤田貴之

ITコンサルタント。六本木男声合唱団ブラジル公演時のブラジル茶会のお運びを手伝い、お茶の世界の深さ、面白さを感じ六志会に参加。5年前に長野に移住し、森林再生にも取り組む。

山梨広一

長年、外資系コンサルタントとして、海外と理屈の世界で活動。還暦に近づき視線を国内と社会に転換し、地方復興、震災復興支援、都庁改革などに奔走。同時に、最近、著作を楽しむ。

高島純

京都大学出身、三菱商事入社、情報産業・金属資源部門を経て、現在IT・AIプロジェクト担当。海外居住経験多数。茶道、ワイン、俳句、音楽、キャンプが趣味。カレーと麻婆豆腐を愛する。

佐藤陽一郎

戦略コミュニケーション専門のコンサルタント、外交官としてパキスタン駐在、総理官邸勤務の後、ゴールドマン・サックス証券を経て、ブランドワイクに参画。茶道、空手道を精古中。

北見宗幸

茶方
異千家茶道教授。一般社団法人茶道文化振興会理事長。ジャポニスム振興会公認・文化マイスター。企業、学校での茶道講師を務め、テレビ、雑誌でも幅広く茶道の指導を行う。

山田晃通

ワイン方
1977年生まれ浜松市出身。シニアソムリエ。フランスワイン各地の騎士団よりシユヴァリエ、オフィシエなどを叙任。六志会以前より麴谷宏主催ワイン茶会のソムリエを務める。

鎌倉和飲茶会お申込み FAX03-3868-0036

下にお名前等ご記入のうえ、このまま上の番号にFAXしてください。
このFAXを受け取り次第、お茶席の確認とお振込のご案内を差し上げます。

申込氏名

合計人数

茶席券郵送先

茶会連絡FAX

茶会連絡TEL

お振込確認後、茶席券を郵送でお届けいたします。
この茶席券が無いと茶会に参加できません。

お問合せ：090・3139・6539 (麴谷)

